

# 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

## 1. 研究課題

チベット文明の継承と史的展開の諸相

Aspects of Historical Development and Transmission of the Tibetan Civilization

## 2. 研究代表者氏名

池田 巧

IKEDA Takumi

## 3. 研究期間

2021年4月-2022年3月

## 4. 研究目的

チベット文明は、周辺諸地域との歴史的交流を通じて、宗教・儀礼・言語・社会制度などを広く浸透させ、独自の文明圏を築きあげた。本共同研究班では、交流史の諸相に関する研究成果を学際的に集積し、チベット文明の史的展開を多角的に分析して、ユーラシア世界におけるその位置づけの再評価を行なう。7世紀以降、チベット・ヒマラヤ地域は周囲の先行文明の影響を受けつつ、独自の文明を展開させてきた。11～12世紀に仏教を完全に消化して以降、より強固となったチベット文明は周辺文化と交流を繰り返しつつモンゴル～東アジアにその影響力を伸張させた。さらに20世紀半ば以降もその発信力は欧米社会までにも影響を与えている。このような発信力と柔軟性をチベット文明は如何に獲得したのか、また周辺諸文明とどのように相克・調和してきたのか。その具体像を探るべく、多様な視点からチベット文明の諸相と継承を学際的に分析する。

From the 7th century, Tibetan civilization—its unique religions, rituals, languages, and social systems—gradually permeated the neighboring cultural areas via direct communications and trade. Our project compiles the results of interdisciplinary research conducted into intercultural communication among these areas, reviewing and evaluating aspects of the historical development and expansion of Tibetan civilization in the Eurasian sphere. The Tibeto-Himalayan area, while influenced by preceding Asian societies, has developed its own distinct civilization. Tibetan civilization grew stronger after assimilating Buddhism in the 11th through 12th centuries and, as a result of interaction with neighboring cultural areas, it spread through Mongolia to East Asia. Moreover, its influence was significant even in the modern European world of the late 20th century. How did Tibetan civilization maintain such power and

flexibility? How did it come into conflict with and then achieve reconciliation with neighboring civilizations? And, how have elements of Tibetan civilization been transmitted into modern society, even after the nation itself ceased to exist? To find answers to such questions, we [shall ]analyze historical aspects and transmission of Tibetan civilization from various academic perspectives.

## 5. 研究成果の概要

研究成果として刊行した『チベットの歴史と社会』は、歴史学、宗教学、言語学、人類学など各分野の専門家が集結し、分野を越えた相互に緊密な連携のもと、最近のチベット研究の成果をふんだんに盛り込んだ平易かつ高度な概論書である。同書は最先端の研究成果を集めた専門的な論文集ではないが、日本のチベット学の現在を知るためのガイドブックとして、既に存在する一般受けの解説書とは一線を画し、入門レベルの概説と、専門的な論文との間の架け橋となるべく編集したものであり、研究の基礎となるレファレンス情報と専門的な研究への読書案内を充実させた点にも大きな特色がある。

## 6. 共同研究会に関連した主な公表実績

\*岩尾一史・池田巧（編）『チベットの歴史と社会』上下、臨川書店、2021年

\*人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー『チベットの歴史と社会』

4月17日(土)「ヒマラヤ世界のウチとソト：受容と交流のチベット史」講師：井内真帆／小松原ゆり

5月15日(土)「高地における家畜との暮らし：チベット高原の牧畜社会」講師：別所裕介／海老原志穂

6月19日(土)「言語文化の継承と変容：広がりゆくチベット語の世界」講師：星泉／池田巧

7月17日(土)「日常の信仰と世界観：チベットの民間宗教とボン教」講師：村上大輔／小西賢吾

## 7. 研究成果公表計画および今後の展開等

共同研究報告書の出版と出版記念連続セミナーを開催したことをもって研究成果の公表は終了した。チベット研究班の成果は、令和4年度より新たに組織する共同研究B班「チベットにおけるコミュニケーションツールの研究－書簡文化の歴史的変遷と現代的意義-」に発展的に継承される予定。